

開校祝賀の歌

明治四十年 札幌農学校より
東北帝国大学農科大学となりし時

一

神統二千五百年
東海の果に眠りたる
大和島根の民衆は
見よや目覚めて明治の世
天の使命を果すべく
進取の旗を振り立てぬ

三

此の国運に魁し
先づ北辺の島の上
荒蕪を拓き民を植ゑ
不明を教へ道を樹て
進取の民の範たりし
百万の民若かりき

五

今や羽翼を整へて
徳乾坤を被ふ可き
国の使命を提げて
千余の学徒磨き
坤輿の民の師たる可き
新職分は下りたり

七

功利若し世の風たらば
其所に我等の戦あり
遊情若し世の俗たらば
其所に我等の戦あり
邪曲若し世の弊たらば
其所に我等の戦あり

二

天に二つの日なければ
地上を西し東せる
文化の潮渦巻きて
日出づる国に相会し
炳焉として虹の如
乾坤茲に光あり

四

此の民衆を導きて
重き使命に負かじと
我が札幌に建てられし
祖校よく其の任に耐へ
北辰高く輝きし
其の名声や將た説かじ

六

思へ嘗ては北辰と
光を競ひ白雪と
意氣争ひし校風を
享けし我らの前程は
高く大きく清らなる
希望の色に溢れずや

八

榆の梢風鳴りて
平和の歌をなすが如
藻岩の雲の峯そひて
莊嚴の色動く如
我等の歌に歓喜と
自信の響こもれかし